

平成28年3月定例記者会見要旨（平成28年2月25日開催）

1. 平成28年度予算の概要について

「坂出に生まれてよかった」「坂出に住んでいてよかった」、さらには「坂出に住みたい」と思っていたようなまちづくりのためには、限られた財源の中で施策の選択と集中を図り、創意工夫を凝らしながら、「市民本位」「市民参加」「市民対話」による市政運営を継続していく必要がある。

また、事業の財源を捻出するためには、自主財源確保対策に粘り強く取り組んでいくとともに、行財政改革においては、これまでの「量」的な改革を継続しつつ、行政を経営するという新たな視点に立ち、限られた経営資源の最適配分を行う中で、「質」の向上に向けた改革を図り、市民との共働を推進するため「さらなる市民参加」の施策を着実に実行しなければならない。

予算要求に当たっては、市政における最上位の方針である「坂出市まちづくり基本構想」の策定や、「坂出市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定したことを踏まえ、これらの実現に向け、将来を見据え優先順位を踏まえた事務事業の選択を徹底すること、また、投資的経費については、国・県の予算編成の動向に留意するとともに、事業の緊急性、投資効果等を十分に検討し、真に市民生活の質の向上、地域の活性化に資する事業に限定するよう指示したところである。

これらを踏まえて予算編成を行った結果、まず、歳入においては地方消費税交付金の平準化に伴う増収が図られるものの、市税全体では前年度に比べ7,620万円の減収となるとともに、地方交付税においては2億2,300万円の大幅な減額が見込まれるところである。

一方、歳出では、大規模防災事業の完了などに伴い、投資的経費については、約11億円の大幅な減額となっている。また、退職手当をはじめとした職員人件費が減額となっているものの、増大する社会保障費の適切な対応に伴う扶助費の増加などが見込まれている。さらに本市の重要施策である人口増対策として、坂出北インターチェンジのフルインター化に向けた調査・概略設計を実施するとともに、保育所・幼稚園保育料の第2子以降無料化の実施など、積極的に予算を投入した。また庁舎建設に向け財源確保としての基金積み増しや特別会計等への財政支援、さらには防災対策経費への重点配分など、多額の一般財源を要する事務事業への対応を講じた結果、生じた約8億700万円を財政調整基金からの繰入金により対応せざるを得ない非常に厳しい予算編成となった。

一般会計の予算総額は、222億1,160万円で前年度に比べ9億7,640万円、率にして4.2%の減となっている。

一方、特別会計では、166億5,543万3千円、企業会計としては、病院事業会計で58億5,038万1千円、水道事業会計で21億7,710万2千円をそれぞれ計上した。